

## デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点

実施機関：群馬大学（総括責任者：高田 邦昭）

実施期間：平成 21～25 年度

### プロジェクトの概要

座学と実習を組み合わせたアナログナレッジ養成、講師育成による人材の拡大再生産、講師をアナログ・エキスパート・グループとして組織化することで企業の研究開発における課題の解決を受講生とともに図るアナログ工房講座を拠点の3本柱として人材育成が駆動する地域再生を図る。座学講座、実習講座、アナログ工房講座、講師養成講座で年間 400 名以上の修了生を輩出する。運営、カリキュラム、到達度評価は企業人と大学教員からなる専門委員会が責任を持つ。成果を人材育成に限定せず、講師育成、講師ネットワークを活用した企業開発支援までを行う仕組みを創出し、企業が抱える人材から開発に至る課題を、本拠点が地域の知の拠点となり産学官が丸となって解決していく。

### (1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 人材養成手法の妥当性 | 実施体制・自治体等との連携 | 人材養成ユニットの有効性 | 継続性・発展性の見通し | 中間評価の反映 |
|------|-------|------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| S    | s     | a          | a             | a            | s           | a       |

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

### (2) 評価コメント

本プロジェクトは、アナログ技術立県を推進している群馬県の方針と連動した地域再生人材育成事業の好事例で、座学講座、実習講座、及びアナログ工房講座の3講座を持ってアナログナレッジを養成しようとする取組である。育成した人材数、開発に成功した製品開発等の実績ともに顕著な成果を上げつつあるものと高く評価できる。今後は、本養成コースの一層の発展と養成された人材の産業現場での活躍だけではなく、アナログ技術による日本の競争力の回復を狙った同様な取組の他地域への波及・展開をも期待する。

・**目標達成度**：客観的な情勢の変化に対応しながら、開講数及び講座修了者数ともに所期の目標数を大きく超える実績を上げたことは高く評価できる。今後は、育成された人材の企業現場での活躍と、それに伴う成果を期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：アンケートによるニーズ調査に基づいて養成コースを設定し、達成度を測るための達成目標リストの作成、アナログ検定の導入や外部評価委員会による事業の改善など、機能的にPDCAサイクルが回されたことは評価できる。

・**実施体制・自治体等との連携**：アナログ技術立県を目指す群馬県からは、受講生募集、広報活動、群馬県主催のフォーラム実施会場の無償提供などの支援も得て、実質的な連携が持たれていることは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：地域活性化の方向と取組の内容を十分に適合させつつ、養成修

了者が地域で活躍できる仕組み作りや、直接企業内開発への支援に結びつく方策作りなどを実践してきたことは評価できる。

・**継続性・発展性**の見通し：事業終了後の運営はアナログナレッジ人材育成拠点運営委員会が行うとされ、平成 26 年度開講予定の講座が群馬県の支援を得て計画されていること、及び本取組がアナログ技術を核とした産業集積の重要なツールの一つとして波及効果が期待できることなど、産学官連携の成果が生かされ、地域を巻き込んだ形で発展的に継続することが計画されていることは高く評価できる。

・**中間評価の反映**：環境の変化に柔軟に対応してカリキュラム体系の改善を継続していくことという指摘に対しては、地域企業のニーズの変化等に適切に応えるなど、十分に対応しているものと評価できる。